



まちびと写真館

其の巻

F.ベアト 原町田風景 1860年

見つけた人 三橋 国民氏

2014年 町田市名誉市民 並びに東京都名誉都民
太平洋戦争下、ニューギニア最前線で戦い、奇跡的に生還
以降、造形美術家として鎮魂をテーマに創作活動を展開している



ロンドンでの偶然の出会い。

アルバム「Views in Japan」（横浜開港資料館蔵）には「幕末の原町田村風景」が二枚も組み込まれていて、この写真は町田の古写真としても広く知られている。

30年ほど前、私は偶然ロンドンの古美術商で、F.ベアトがなぜか前述のアルバムに載せず、残していたもう一枚の「原町田村風景」の鶏卵紙によるオリジナル写真を発見した。驚いたことに、これは私の生家である旧宝永堂社屋の前から小田急駅方向を望遠レンズでシャープに捉えたものだった。研究書によれば来日した頃のベアトは40歳そこそこでありながら、高度の写真技術を身に付けていたことがわかる。更にラッキーなことに、私は彼が使用していたものと同年代の英国製暗箱カメラもその古美術商の紹介で求めることができたのだ。

イタリア生まれ英国籍の写真家ベアトは1863年から21年間、横浜で暮らしていた。軍用写真のほか風景や肖像写真、風俗写真など多くの写真を撮り、日本の写真家に与えた影響は測り知れないと言われている。原町田村撮影の際には勝楽寺の門前にあった「茶屋」に一泊。社交家で明るい写真家であったそうである。